

まちの話題

集落到咲き誇るアジサイ

今年も、下甕町内川内集落到、アジサイが咲き誇りました。内川内集落は、甕島最高峰「尾岳」の西側、海拔 200 m ~ 300 m の斜面に位置する集落で、住民の手により整備されたアジサイが、住民はもとより訪れる人の目を楽しませてくれます。



今年もおいしい新茶ができました

5月28日(金)、薩摩川内市茶業振興会など市内茶生産者団体の代表者より、令和3年度産の新茶の贈呈が行われました。これは、本市産茶のPRや地産地消への理解を深めてもらうために行われたもので、今年の新茶は例年より10日ほど茶摘みが早く、香り高いのが特徴だということです。



本市を舞台にした英語教材

本市に勤務するALT(外国語指導助手)4人が、本市を舞台にした英語の絵本や入来・祁答院地域の学校・地域を紹介する英語教材を制作しました。この教材は、市内の小・中・義務教育学校などに配られ、ふるさとの良さに気付き、その良さを積極的に英語で発信する力の育成を目的に活用されます。



「まちの話題」に投稿ください。

まちの話題は、市民の皆さんからいただいた情報により、身近な話題を掲載しています。皆さんからのたくさんの投稿お待ちしております。

投稿方法

- ①タイトル(11文字程度) ②本文(140文字程度)
 - ③投稿者名 ④連絡先 ⑤写真1枚~3枚
- を添えて、広報室までメールで投稿ください。
メールアドレス/koho@city.satsumasendai.lg.jp

※内容やスペースの都合により掲載できない場合がありますので、あらかじめご了承ください。

読書環境の充実のために 寄附贈呈式

6月4日(金)、薩摩川内ロータリークラブより、中央図書館へ映像機器一式の寄附があり、目録および感謝状の贈呈式が行われました。これは、同クラブ創立40周年記念事業として行われたもので、今後、視聴覚事業に活用され、読書環境のさらなる充実を図ります。



甕島のトシドン継承のために

(一財)神道文化会が行う芸能普及費支給制度に、今回、下甕島に伝わる年中行事「甕島のトシドン」が選ばれ、6月8日(火)、推薦人の照国神社宮司島津修久氏より、甕島のトシドン保存会会長原崎輝宏氏に伝達されました。これは、東京大神宮での伝達式が見送りとなったため、島津宮司が「直接普及費をお渡ししたい」との意向で行われたものです。



▲写真左より、島津氏、原崎氏



住宅用火災警報器 寿命は約10年です!



住宅用火災警報器が、平成23年6月1日にすべての住宅への設置が義務化されてから令和3年6月1日で10年が経過しました。住宅用火災警報器は、一般的には電池で動いています。火災を感知するために常に作動しており、その電池や電子部品の寿命の目安は約**10年**とされています。

住宅用火災警報器は、かけがえのない家族の命や大切な財産を守る重要な役割を果たしています。「いざ」というときに適切に作動するように、定期的に作動確認および本体の交換を行い、住宅用火災警報器の正しい維持管理を習慣づけましょう。



編集/薩摩川内市消防局予防課 <http://www.satsumasendai-fd.jp>

薩摩川内市消防局

検索

住宅用火災警報器を チェックしてみましょう!

確認

製造年月や設置した時に記入した設置年月を確認しましょう。**10年を経過**しているか**10年未満**かがポイントです!

〈記載場所例〉

本体裏面 本体側面



※記載場所はメーカーや製品によって異なります。

交換

交換の目安は10年です。10年を経過すると、本体内部の電子部品が劣化して火災を感知しなくなることが考えられるため、本体の交換を推奨しています。

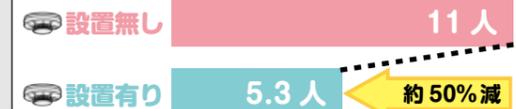


点検

点検ボタンを押すかひもを引っ張り、定期的に作動確認をしましょう。警報器に反応がなければ、故障か電池切れです。警報器の本体または電池を交換しましょう。



住宅火災 100件当たりの死者数 (平成29年~令和元年)



平成29年から令和元年までの3年間に発生した全国の住宅火災について、住宅用火災警報器を設置していた場合は、設置していない住宅火災の死者数が約50%減少という結果が出ています。設置することで、早期に火災に気付き避難することができます。



深ボリ! 企業のチカラ

第34回 株式会社薩摩川内鰻

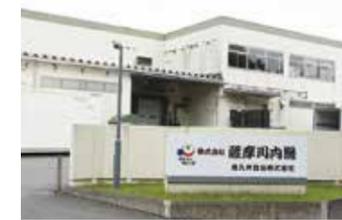
今回は、株式会社薩摩川内鰻を「深ボリ!」。管理部部長の森崎俊朗さんにお話を伺いました。

事業の概要

当社は、平成22年に備後漬物有限会社(本社・広島県)の子会社として設立



▲仕入れから製品まで徹底した管理を行い、安心・安全な商品づくりに努めています。



▲ Instagram



▲ YouTube

こだわりの品質管理



し、本市に立地した薩摩川内うなぎ(株)と(株)薩摩川内鰻が、令和2年7月に合併し、現在の(株)薩摩川内鰻となりました。ウナギの養殖から加工、販売まで自社で行っています。ウナギの餌やさばき方、加工に使用するタレなどお客様へのニーズに合わせてきめ細やかな商品設計と満足度のいく商品づくりに努めています。

当社では、活鰻の仕入れから販売までのトレーサビリティ(生産履歴管理)を確立しており、自社池の温度や水質を24時間体制で管理しています。

また、最新の機器、システム、技術を導入し、お客さまに安心・安全かつ、おいしい商品を提供できるよう日々取り組んでいます。

認定や受賞の数々

日本惣菜協会による HACCP(製品の安全を確保する衛生管理手法)認定を安心・安全に対するハード面の徹底と従業員の衛生管理意識の高さにより、操業からわずか7カ月で取得しました。また、「世界食品オリンピック」ともいわれるモンドセレクション金賞を2010年に受賞しました。



今後の抱負

現在では、ネット環境の整備が進み、気軽にインターネットで買い物ができる時代になり、個人消費の需要が高まっています。当社では、そのような需要にお応えするため、通販サイトの創設やSNSでの情報発信に力を注ぎ、これからも皆さまのお手元に安心・安全をお届けできるよう精進してまいります。

株式会社薩摩川内鰻
東郷町斧刈8710-3
TEL 09969(3)2379
FAX 090(3191)4046

起業者応援! 今月の起業人

このコーナーでは新規開業者情報をお届けしています。

船宿 香桜美丸 起業者: 江口 秋弘さん

船島の海釣りの魅力と醍醐味を多くの方に知ってもらうため、島内出船港の遊漁船(瀬渡し)業と簡易宿泊施設を5月下旬にオープン。「釣魚の宝庫」である船島の時間を気にせず、思う存分海釣りを楽しんでいただけるように、アットホームな雰囲気でお迎えします。ご希望には誠心誠意対応いたしますので、お気軽にご連絡ください。

- 所在地 / 里町里 3425
- TEL 09969(3)2379
- FAX 090(3191)4046
- 営業時間 / 8:00 ~ 18:00
- 定休日 / 不定休
- 駐車場 / 2台

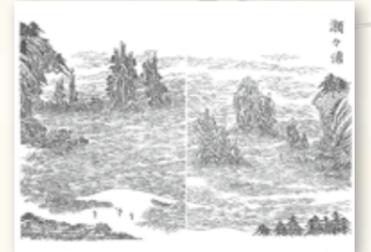
深発見 歴史文化 遺産

第三回 甌島つうりずむ by『三國名勝図会』

甌島は数多くの観光名所が知られていますが、実は江戸時代から有名だったのです。今回は、天保14年(1843)編さんの『三國名勝図会』という、江戸時代版観光ガイドブックから、ほんの一部をご紹介します。



まずは「眺浦」。今は「長目の浜」と呼ばれている甌島を代表する名所です。「寛陽公當島に渡海し玉ひ、梶原某が宅に宿し、北浦に遊覧し玉ふ」の記述には、薩摩藩二代目藩主島津光久が梶原さんという方のお宅に泊ったことが伺い知れます。



「瀬尾瀑布」。「瀑布」とは滝のことで現在の瀬尾観音三滝です。「瀑布凡そ三層にして落つ、下の層は巨巖の滑石にして、幾條にも分て、宛も白練を掛たるが如し」との記述は、今と変わらない姿を伝えています。



「瀬々浦」です。「断岸絶壁、千石直立し、奇巖怪石萬慮の異観なり」と書かれており、当時から奇岩がズラリと並ぶ姿がとても珍しかったようです。

薩摩川内には長い歴史の中で起きた物語、育まれた文化が数多くあります。このコーナーでは、数ある薩摩川内の歴史・文化の中から、とっておきのトピックスをご紹介します。

「海鼠池」のナマコは「其味佳絶なり」とあり、格別に美味だったようです。この他にも、特産品として、先述の「海鼠」や「紅葉」、「鱈」、「鯖」、「烏賊」など海産物が列挙されています。さらに石材に「益山石(冷泉石)」とあり、これはあの「篤姫」が將軍家に嫁入りする際の献上品の一つとして作られた巨大硯の材料となつて

います。ぜひ、この『三國名勝図会』をガイドに江戸時代の甌島タイムトラベルを楽しんでみてはいかがでしょうか。※画像は「国立国会図書館ウェブページ」より文責・問合せは本庁文化課文化財G(内線5233)

VOL.4 防災トピックス

災害から家族や自分を守るために パソコンやスマートフォンで 情報を入手しよう!

本市では、素早い災害対応のために、さまざまな企業と提携しています。今回は、パソコンやスマートフォンで活用できるアプリとサイトを紹介します。

災害情報をプッシュ通知でお知らせ

Yahoo!防災速報

Yahoo!が提供する防災速報アプリでは、緊急地震速報や避難情報、豪雨予測をはじめ、さまざまな災害情報をプッシュ通知でいち早くお知らせします。

スマートフォンなどで利用できるアプリ版とパソコンなどにメールでお知らせするメール版があります。

設定方法 / QRコードからダウンロードしたアプリを開き、「設定」→「地域の設定」→「薩摩川内市」を登録または「現在地連動の設定」を「オン」。

プッシュ通知する情報の選択 → 「自治体からの緊急情報を「オン」。

[Android版] [iOS版]

避難所の開設・空き情報を確認

株VACAN 避難所情報

(株)バカンが提供するサイトでは、避難所の開設状況や混雑状況をパソコンやスマートフォンなどを利用してリアルタイムで確認することが出来ます。

混雑情報を事前に確認することで、一部の避難所に人が集中することを回避し、新型コロナウイルスの感染リスクを軽減します。

利用方法 / スマートフォンで下記のQRコードを読み取るか、パソコンの下記URLの入力などでVACANのサイトへ移行後、避難所一覧から本市の避難所を選択するか、地図上から選択して詳細を確認できます。

URL = <https://vacan.com/>

問合せ / 本庁防災安全課防災G (内線4921・4922)

行こうよ！図書館へ



▲図書館HP

おすすめ本



東京で働いていた32歳の都は、親の看病のために実家に戻り地元のショッピングセンターで働き始めるが…。先の見えない恋愛や家族の世話、仕事のトラブルなど、理想と現実が悩みながら人生の選択をしていく姿が共感を呼んだ作品です。

自転しながら公転する

著/山本文緒

利用者おすすめの本



農林水産省職員直伝「食材」のトリセツ

協力/農林水産省

野菜や米、花などの農林水産物をもっと知ってもらおうと、ユニークな動画で発信している農林水産省の職員の方々が、各食材についての「おいしい」情報を詰め込んだ取扱説明書(トリセツ)です。この本では、生産地レポート、おすすめ商品やレシピなどが旅行雑誌のような楽しい写真とともに紹介されています。担当者の熱い思いが詰まっています。夏休みの自由研究にもきっと活躍する本です。



江戸時代に誕生した手ぬぐいは、薄くて丈夫で、吸水性、速乾性もある便利な生活道具です。掃除や炊事、育児や美容の他、インテリアや災害時などでの活用法を紹介します。また、季節や祝い事などのデザインも楽しめる本です。

手ぬぐい使いこなしブック

著/加藤敦子



お寺の掲示板

お寺の掲示板の言葉を通して、もっと仏教に触れてほしいの思いから始まった「輝け！お寺の掲示板大賞」。応募作品はバラエティに富み、深く考えさせられるものから、ユニークなものまでさまざま。きっとお寺巡りをしたくなることでしょう。



絵本

カレーライスを食べていたフミオの口の中から出てきたものは、世にも珍しい「カレーのたね」。庭に埋めると、ぐんぐん育ち、大きなカレーの木になりました。はっぱのお皿やカレーの実？ どうやって食べるかは、本を読んでものお楽しみです。

ひみつのカレーライス

著/江田智昭

作/井上荒野 絵/田中清代

新着本



子どもに迷惑をかけない・かけられない！60代からの介護・お金・暮らし

著/太田差生子



気になる隣のソロキャンプ

発行/東京書店



令和に巡る京都新100寺巡礼

著/秋吉茂



アレにもコレにも！モノのなまえ事典

文/杉村喜光 絵/大崎メグミ



新版 科学者の目

文・絵/かこさとし

中央図書館からのお知らせ

■郷土文芸誌「文化薩摩川内」第17号作品募集

応募作品/短歌(五首)、俳句(五句)、川柳(五句)、詩(1篇 37行以内)、さつま狂句(五句)、随筆(所定の原稿用紙6枚以内)
文芸評論・小論・創作・小説(いずれも所定の原稿用紙20枚以内)

応募資格/市内に居住または通勤している方、郷土出身者

応募方法/中央図書館、各分館、地域公民館に備え付けの原稿用紙(23字×20行)の末尾に、住所、氏名、電話番号を明記の上、直接、送付

応募締切/9月30日(木)

販売時期/令和4年3月予定

応募・問合せ/〒895-0076 大小路町14-5 中央図書館



問合せ先

中央図書館	☎0996(22)3542
樋脇分館	☎0996(38)0009
入来分館	☎0996(44)5311
東郷分館	☎0996(42)0053
祁答院分館	☎0996(21)8755
里分館	☎09969(3)2958
上甌分館	☎09969(2)0001
下甌分館	☎09969(7)0311
鹿島分館	☎09969(4)2211



人のとなりに
永野純一さん(70)

川内名物「うまだい」誕生秘話

元々、川内山形屋で金生まんじゅうを作っていた永野さんは、当時流行していた子門正人が歌う「およげ！たいやきくん」にヒントを得て、たい焼きの販売を始める。たい焼きブームの波に乗り、飛ぶように売れたたい焼きでしたが、半年もするとブームは去り、販売も下火に。ある日、たい焼きを買いたい来た中学生の女の子3人、サービスで面白半分で作っていたウインナーとマヨネーズ入りのたい焼きをあげると、それを食べた女の子たちから、「おいしかった。また食べたからどうしても売ってほしい」とせがまれます。その後も、山形屋の従業員さんたちが絶賛する声もあり、ついにウインナーとマヨネーズ入りのたい焼きを商品化。今のように、たい焼きやたい焼きにマヨネーズなどを入れる発想がなかった

当時、物珍しさも手伝って、たちまち大ヒットし、お店には行列ができてしまう。そして、最初は単純に「ウインナー入りたい焼き」の名前で売っていたたい焼きでしたが、大ヒットを受け、ネーミングを見直し、名前で中身も分かるように、「ウインナー」の①、「マヨネーズ」の②、おいしいを意味する「うまい」を掛けて「うまだい」と、さらに「からし」を加えたものを「うまかだい」としました。こうして川内名物「うまだい」と「うまかだい」は誕生したのです。

「人のとなりに」とは…
文字通り、その人の隣にいて、思いに寄り添うことや人柄を表す言葉「人となり」をイメージした新コーナーで、人物や活動の紹介だけでなく、その人の思いにスポットを当てることを目的としています。

永野純一さんは、妻の多美子さんと2人で、川内山形屋の1階で、金生まんじゅう店を営んでいます。そして、お店を閉めた後には、時々、その日残ってしまった、たい焼きなどを児童養護施設川内精舎の子どもたちに届けています。今回は、そんな永野さんの行動と想いを追いかけてみました。

川内精舎と永野さんの縁は、施設からの「5月1日の開園記念日にたい焼きを購入したい」との声掛けで始まり、以降毎年5月1日には、施設からたい焼きの注文が入るようになり、交流が深まっています。そんなある日、永野さんは、大量に売れ残った、たい焼きを前にして、「ふと施設の子どもの顔が頭に浮かびました。『そうだ、あの子どもたちは、食べてくれないだろうか』そう考え、早速たい焼きを抱え、足を運ぶと、子どもたちをはじめ施設の方々はとても喜んで、もらってくれました。

不定期ながら施設に足を運び届けるようになりました。近年では、永野さんが訪問すると子どもたちは、「たい焼きのおじちゃん来た」と集まってくる。「ありがたうございます」と深々と頭を下げてくれるそう。その姿を見る度、永野さんは涙が出そうになります。「余った物を届けてるだけなのにあんなにきちんとお礼を言ってくれて。食べてくれるだけでありがたいのに。こっちはありがたいんだよ」

毎年、年末の頃になると、施設の子どもたちからメッセージが届きます。それは、たい焼きの形をしたメッセージカードだったり、年賀状を模した巨大なお手紙だったり。永野さんは、一番新しい物だけをお店のいつでも見えるところに置き、それ以外は、大事に保管しています。



続けることへの思い

「昔は、忙し過ぎて1年間で、休みが1日しかなかったこともあった。辞めたいと思ったこともあったけれど、お世話になってい



取材を終えて
月曜日と火曜日をお休みとした永野さんは、「余った物を届けてもらえるだけで、広報紙に載せてもらうような立派なことは何もない」とそう苦笑いしながら、今日も川内山形屋の1階であるこやウインナーと一緒に真心を包んでいます。

山形屋さんや川内精舎の子どもの声でここまでやってこれた。これからは、無理のない範囲でやれるところまで続けたい」